



ハマボウフウ（浜防風）

語源

学名 ハマボウフウ属 *Glehnia*：ロシアの植物採集家で樺太の植物を研究したグレーン(P. von Glehn, 1835-1876)にちなむ。種小名 *littoralis*：「海浜生の」という意味。和名のハマボウフウ(浜防風)とは、海浜に生える「防風」の意味で、中国の「防風」(*Saposhnikovia divaricata* Schischkin)の代用品として用いられてきたため。また別説では、砂丘にハマボウフウの根が深く張ることで、砂が風で飛散するのを防ぐ、つまり「砂丘を風から防ぐ」ことから、「浜防風」となったともされる。ハマボウフウは、刺身のつまなどの日本料理には欠かせない高級野菜として、八百屋の店頭にも並べられることから「八百屋防風」(ヤオヤボウフウ)とも呼ばれる。

基原

Glehnia littoralis Fr. ex Miquel ハマボウフウ

セリ科 多年生草本

中国ではハマボウフウの剥皮した根を北沙参(ほくしゃじん)と称して利用する。これに対して、南沙参(なんしゃじん)は *Adenophora stricta* Miq. マルバニンジン又は同属植物(キキョウ科)の根で、通常、日本では沙参と称するが、北沙参とは全く別物である。

薬用部分

根及び根茎

産地

中国、韓国、日本(北海道、秋田、島根、香川、鹿児島など)

主な成分

クマリン配糖体のインペラトリン、プソラレン、ベルガプテン、オステノール-ゲンチオビオサイドのほか、精油などを含有する。

主な薬効

解熱、鎮痛、免疫抑制

代表的処方

発汗、解熱、鎮痛、鎮咳、去痰、強壮薬として感冒薬に用いられる。また民間で浴湯料に使用するほか、正月の屠蘇散として、白朮、桔梗、山椒、桂皮などと配合される。

【防風通聖散】

ボウフウツウショウサン

体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの次の諸症：高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症(副鼻腔炎)、湿疹・皮膚炎、ふきでもの(にきび)、肥満症

(処方内容) 当归/芍薬/川芎/山梔子/連翹/薄荷葉/生姜/荊芥/防風/麻黄/大黃/芒硝/白朮/桔梗/黄芩/甘草/石膏/滑石

【十味敗毒湯】

ジュウミハイドクトウ

体力中等度なものの皮膚疾患で、発赤があり、ときに化膿するものの次の諸症：化膿性皮膚疾患・急性皮膚疾患の初期、じんましん、湿疹・皮膚炎、水虫

(処方内容) 柴胡/桜皮(樸椒)/桔梗/川芎/茯苓/独活/防風/甘草/生姜/荊芥/連翹

【荊芥連翹湯】

ケイガイレンギョウトウ

体力中等度以上で、皮膚の色が浅黒く、ときに手足の裏に脂汗をかきやすく腹壁が緊張しているものの次の諸症：蓄膿症(副鼻腔炎)、慢性鼻炎、慢性扁桃炎、にきび

(処方内容) 当归/荊芥/芍薬/防風/川芎/薄荷葉/地黄/枳殻/黄連/甘草/黄芩/白芷/黄柏/桔梗/山梔子/柴胡/連翹

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「日本薬草全書」「家庭の民間薬・漢方薬」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562

URL: www.fukudaryu.co.jp